

エンジニアのためのドキュメンテーション入門 4

Wiki系ツールの留意点

運用設計ラーニング

2025-08-27

2つの命題

ドキュメントは誰のために書くものか？

WiKi系ツールは誰のためのツールか？

2つの命題

ドキュメントは**誰のために書く**ものか？

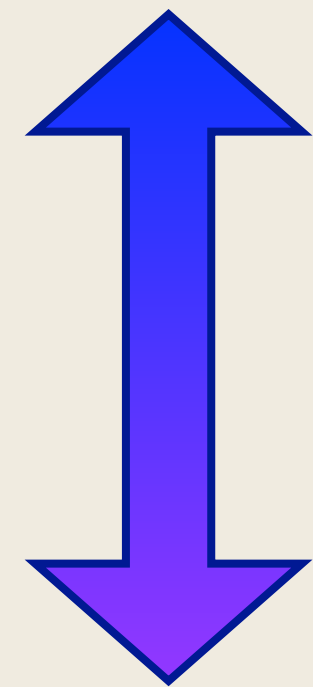
読み手のために書く (一方向のコミュニケーション)

WiKi系ツールは**誰のためのツール**か？

書き手のための機能がメイン

ドキュメント管理とWiKi系ツール

ドキュメントは**読み手のために書く**



ギャップ

ドキュメント管理にWiKi系ツールを使うときに
意識しておくことが重要

WiKi系ツールは**書き手のためのツール**

普段からギャップを意識しておかないと
「**書き手のためのドキュメント**」に陥りやすい

WiKi系ツールが適している用途

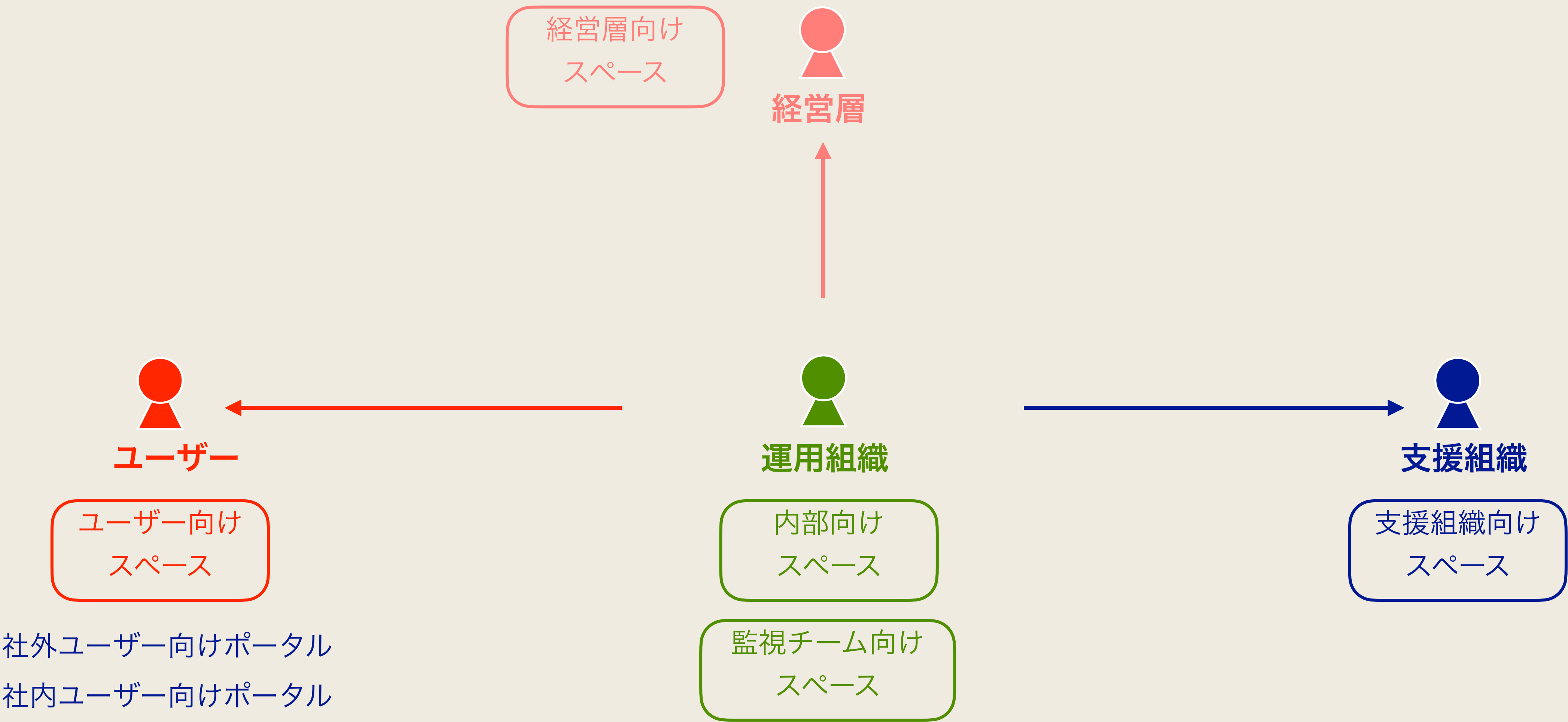
WiKi系ツールは書き手のためのツール

- ・ **書き手しかいない環境**において、簡易的な情報管理には向いている。
- ・ 単発イベントの運営や、短期的なプロジェクトなどで、**寿命の短い情報を管理**するとき、は特にデメリットが生じない。

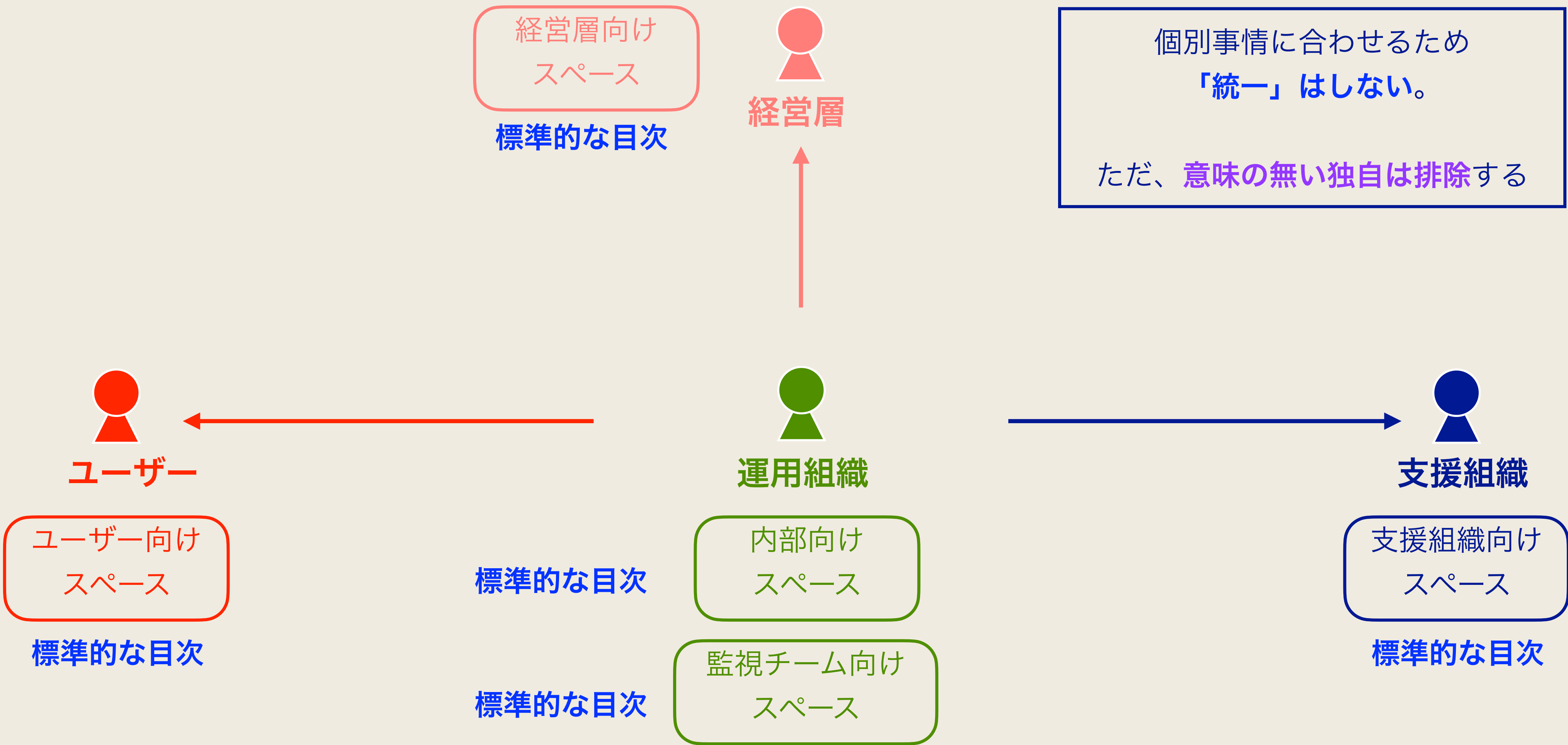
逆に、これ以外の用途では、かなり配慮しないと
「**書き手のためのドキュメント**」に陥りやすい

WiKiツール ポリシー (私案)

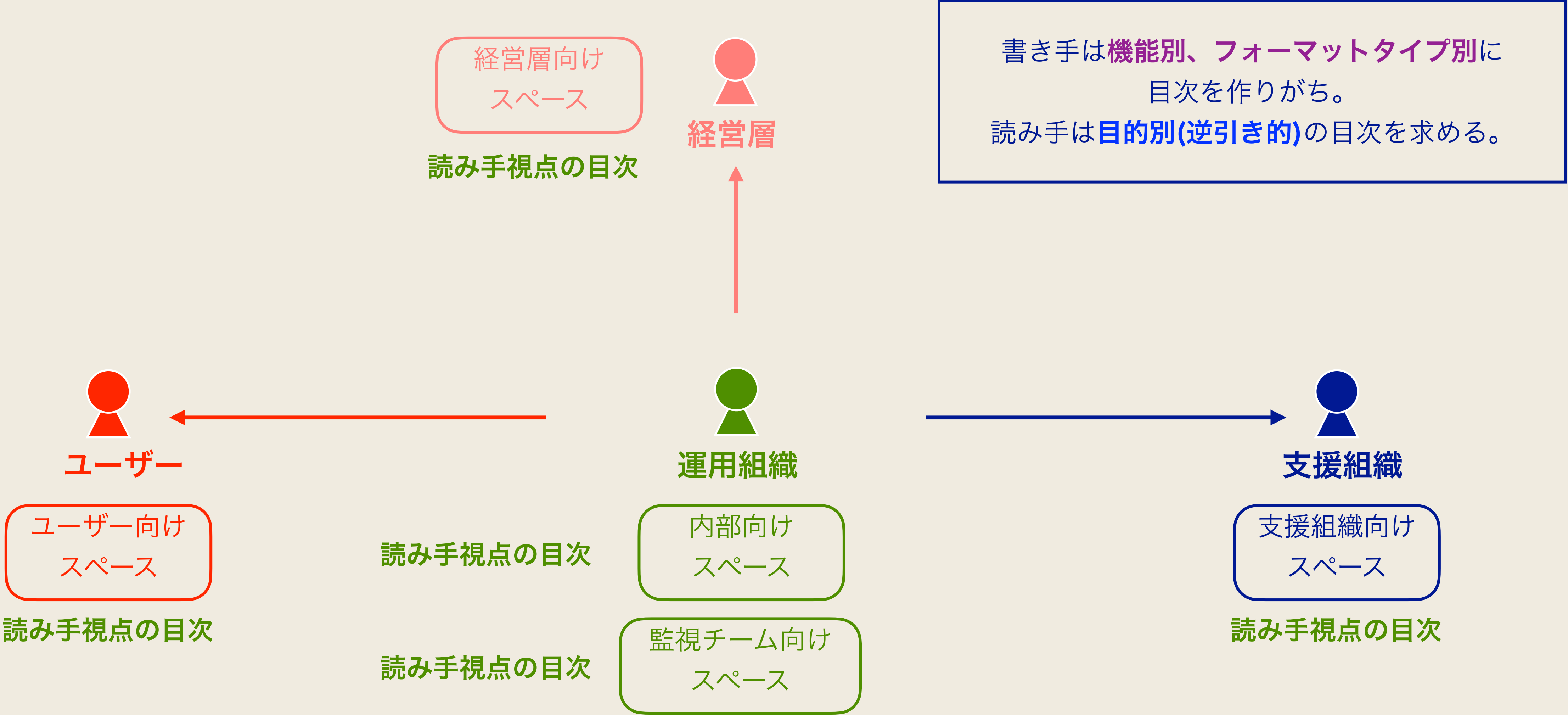
読者毎にポータル/スペースを分ける



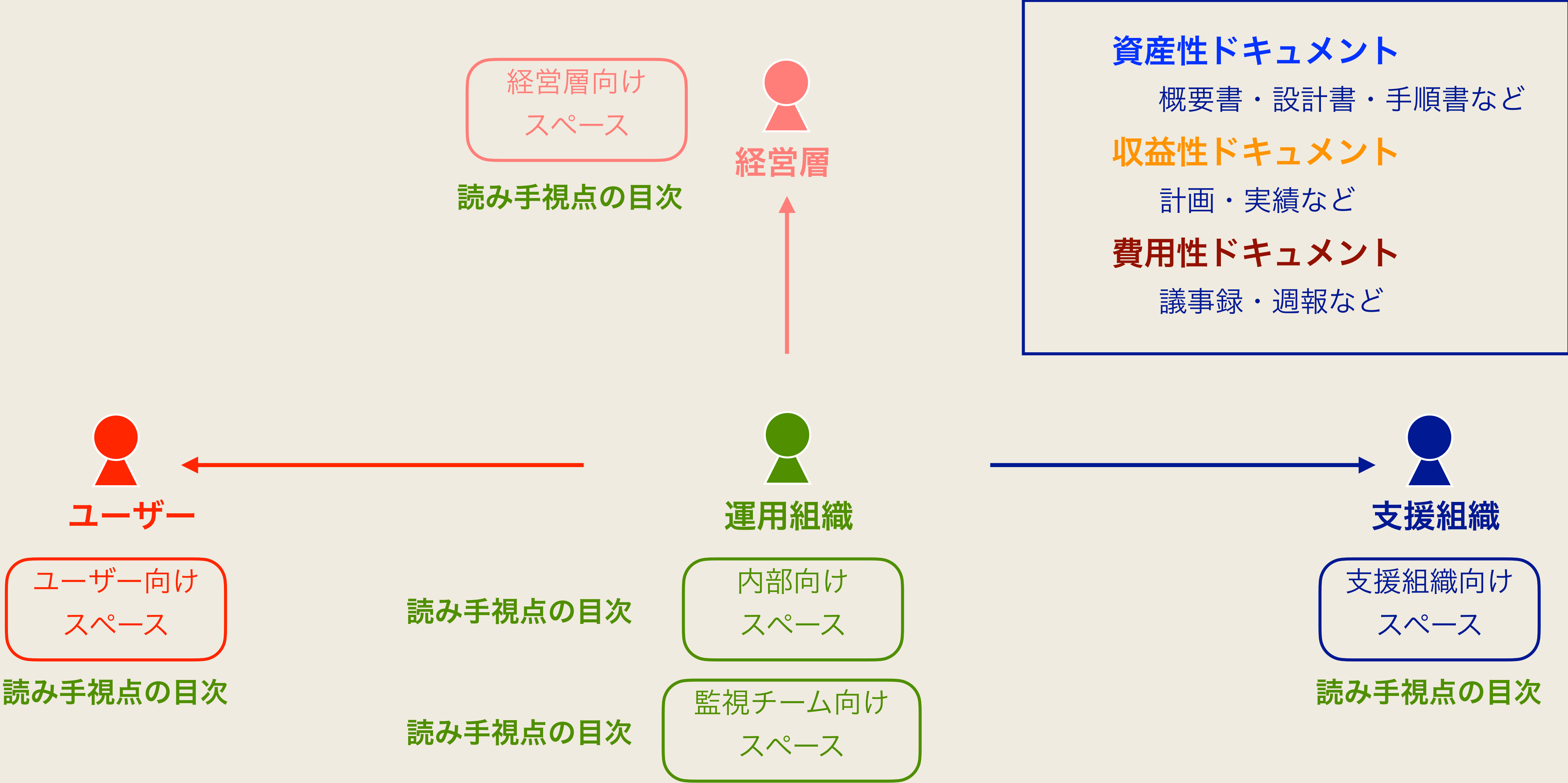
各ポータル/スペースの構造/目次を揃える



構造/目次は読み手視点で作る



書き手も読み手も「価値分類」の目次が基本



読み手の粒度でツリーを分割する



内容が重複する場合、「読み手」を重視して配置場所を決定する